

出題分析			
試験時間	60分	配点	100点
		大問数	3題
分量 (昨年比較)	[減少]	[同程度]	増加]
		難易度変化 (昨年比較)	[易化]
			[同程度]
			難化]
<p>【概評】</p> <p>時代別では原始・古代～現代から満遍なく出題され、特に現代史の出題が昨年度よりも増加した。分野別では外交史が半分近くを占め、文化史の出題も昨年度より増加した。また、昨年度に出題された史料問題は、今年度は見られなかった。</p> <p>一部の問題で、細かい知識や難しい漢字の書き取りが求められたものの、全体的には標準的な難易度であり、基礎的な知識で答えられる問題を確実に得点していくことが合格の鍵となるであろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	原始・古代～中世の日中関係、古代～中世の「徳政」	原始・古代～中世の政治・外交・社会・文化を問う出題。日中関係については昨年度の I でもテーマになっている。問 1(1)(2)・(3)(4)．昨年度にも同様のリード文が見られ、そこでは当時の後漢の皇帝である安帝が問われた。(11)(12)．吉備真備は昨年度にも問われた。(15)(16)．各大学別曹と設置した氏族の組み合わせは必ず押さえよう。(21)(22)．63 の日本国王臣源と迷うだろうが、これは明へ送る公式文書に署名した時の名称。(23)(24)．足利義満が遣使した年である 14 の 1401 年を選ばないように注意。問 2. b. 「綜」と「種」という同じ読みの漢字が出てくるので、書く時に注意したい。	標準

設問別講評			
II	江戸時代の対外関係	江戸時代初期～幕末の外交を問う出題。問1(43)(44)・(45)(46)．やや細かい。組み合わせを逆にしてしまった受験生もいただろう。(53)(54)．やや細かい。渡島半島は北海道南西部にある半島を指す。(59)(60)．「1789年」とあるので、40のシャクシャインの蜂起(1669年)ではないことに注意。(63)(64)．教科書の脚注に見られるものの、やや難。問2．a．こうした干支がつく語句は混同しやすいのでしっかりと区別したい。c．意外と盲点であったか。日米和親条約は宿駅である神奈川の近くで結ばれたことから神奈川条約とも呼ばれる。問3(3)．25字の短文記述問題で、最恵国待遇について記述すればよい。	標準
III	近現代のマスメディア	NHKの設立から2026年で100年になることに関連して、近現代の政治・社会・経済・文化を問う出題。(93)(94)．やや細かい知識が問われた。(101)(102)．25の関東総督府と1字違いなので選択ミスに注意。なお、関東総督府は関東都督府の前身にあたる機関である。(113)(114)．やや細かい知識が問われた。問2．b．讒謗律であることはわかると思うが、「讒」を正確に書けた受験生がどれだけいたか。c．「ロシアに対する敵意の高まりを象徴」からわかる。問3(2)．(あ)．やや難。高度経済成長期には今回の消費革命やエネルギー革命など、変化を示す「革命」を用いた語句が多く見られる。(い)．やや細かいが、慶大受験生であれば押さえておいてほしい。	標準

合格のための学習法

慶應義塾大学商学部の日本史は例年、文化史や現代史を中心とした大問や時事問題などの出題が見られ、教科書に記載のない難問が出題されることもある。そのため、教科書の範囲内の問題は確実に得点することが肝要である。時代比率は年度によって変化するので、全時代をきちんと学習しておこう。また、学部の特性上、経済分野も念入りに見ておくべきである。短文記述問題については、日頃から歴史用語や事項を 20～40 字で説明する練習をしておくといだろう。